

葉、小豆の葉、小角豆の葉、芋の落

葉など、むざと捨候義は、もつたいなき

事に候

一家主・子供・下人等迄、不断はなるほど疏飯

をくうべし、但田畑おこし、田を植稻を

刈一入ほねおり申す時分は、不断より少し食

物をよくつかまつり、沢山にくわせ遣い

★もつたいなき（勿体なき…惜しい、残念、不屈きな）

下人（げにん…奉公人、使用人）

不断（ふだん…日頃、平常）

一入（ひとしお…ひときわ、一段と）

申すべく候、其心付あれば、精を出す

もの二候事

一何とぞいたし、牛馬のよきを持候よう

に仕るべし、能牛馬程こえを多く

ふむものに候、身上ならざるものは

是非におよばず、まづ、かくの「とく

こころがけ申すべく候、ならびに

★心付（こころつき…注意すること、気を配ること）

何とぞいたし（何卒いたし…どうかして、なんとかして）